

第14期第2回札幌市福祉のまちづくり推進会議における質問等への回答			
発言者	項目	質問等の内容	所管部局の回答
浅香委員	地下鉄駅ホームと車両の段差隙間の縮小整備について	＜高橋委員の以下発言を受けての浅香委員の発言＞ （高橋委員）地下鉄のホームに令和6、7年ぐらいからスロープが付くようになったが、隙間があって危険であるため、実際に車椅子ユーザーがそのスロープを使って地下鉄に自力で乗るのは難しい。 あるとき、駅員にスロープを利用して地下鉄に乗ることもできると言われたが、このスロープだと隙間があるので難しい旨を伝えたところ、「ああ、そうですか」というような感じで対応された。実際にホームにスロープを付ける前に、車椅子の方々の検証等があれば良かった。 （浅香委員）当該整備を行う際に、札幌市交通局からの依頼で現地の使い勝手の確認を行ったが、隙間に車椅子の前輪が引っ掛かりやすく、乗り降りに危険を伴う車椅子利用者もいるため、駅員に敷板を敷いてもらうかどうかを選択できるようにしてほしいと申し入れたところ。 しかしながら、高橋委員からの指摘の通り当該運用が徹底されていないようであるため、障がい福祉課から交通局に申し入れをしてほしい。	【保健福祉局障がい福祉課】 本件を所管する札幌市交通局運輸課に対して御指摘の内容を申し伝えたところ、以下の回答がありました。 御指摘を受け、改めて各駅員に対し、車椅子利用者から申し出があった際にサポートを行うことについて周知を行ったところです。今後も、障がいなど配慮が必要な方にも快適に市営交通をご利用いただけるよう、職員の障がい等の理解向上に努めてまいります。
末永委員	札幌市障がい者スポーツの暫定的な拠点の整備に関するバリアフリーチェック関連	運用開始後、引き続き一般の方が利用できるのかなど、施設の運用はどう変わるのか。 例えば車椅子利用者用駐車場から建物までスタッフが傘をさす等のソフト面の対応について、現在の施設運用に加えてそのような対応がプラスされると、マンパワーが足りないのではないかと思われるが、その対応を行うための人員的な体制等についてどのように考えているか。	【スポーツ局スポーツ振興担当課】 本施設は障がいのある方の優先利用施設といたしますが、既存の利用者の皆様も利用していただけるようにする予定です。 また、車いす利用者への介助などのソフト面での配慮やサポートにつきましては、利用される方々の安全かつ円滑な利用のために非常に重要な要素であると認識しており、現在の施設運用の中でもすでに対応しております。必要な人員体制につきましては、施設の業務内容の精査と併せてしっかりと検討してまいります。